

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

平成 27 年 9 月 16 日 基礎教育自己点検・評価専門委員会

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:17 (77%) ②:5 (23%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:15 (68%) ②:6 (27%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:15 (68%) ②:6 (27%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:14 (64%) ②:8 (36%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:13 (59%) ②:8 (36%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (5%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:20 (91%) ②:2 (9%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:14 (64%) ②:8 (36%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:13 (59%) ②:6 (27%) ③:2 (9%) ④:1 (5%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:11 (50%) ②:10 (45%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:13 (59%) ②:8 (36%) ③:1 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 6 (27%)
 - ②学内外の FD 講演会等への参加： 13 (59%)
 - ③他大学の FD 活動の視察： 0 (0%)
 - ④その他： 3 (14%)・・・「複数教員による講義なので常に授業参観している状態」
「少人数クラスでの授業」「他教員の経験を聞く」
- 未回答： 3 (14%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 7 (32%)
 - ②学内外の FD 講演会等への参加： 15 (68%)
 - ③他大学の FD 活動の視察： 0 (0%)
 - ④その他： 2 (9%)・・・「他教員の経験を聞く」「九州地区大学教育研究協議会への参加」
- 未回答： 3 (14%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：9 クラス（順不同）

[1] 「授業改善」よりも「システム改善」

本講義は、1 年次クラス担任が担当することになっているので、昨年度は担当していない。また、昨年度の担当者から昨年度の実施状況を詳しく伺い今年度の実施に際し参考にしたが、基礎教育が行った授業評価結果は入手していない。特に学生からのコメントが重要だと思われるが、専門教育の方では頂けるコメントの pdf ファイルを基礎教育の方からは頂いていないので、学生の生の声を聞き損なっている。実のところ、今年度実施した授業評価も基礎教育部から未だに戻ってこないもので、反省するにも、教員側の一方的な主観でしか反省できない。授業改善というより、システム改善が必要かと思われる。

[2] 話が聞き取りづらいという指摘を受けたので改善した。

[3] パワーポイントのスライドを見やすくした。

[4] ・講義資料を、わかりやすいように改善した。

・提出締切があるもの(レポートやプレゼンテーション資料など)は、早めに告知した。

[5] 一方的な授業にならないよう、双方向の授業になるようにした。

学生自身がアクティブに学んでいくことができるよう演習の時間を多く設けた。また、次回までの課題を出し、その課題をもとに授業を進めた。

[6] 授業開始前の全担当者への入念な打ち合わせにより、授業全体の統一をより一層図った。

[7] 本科目は、複数の教員によるオムニバス形式です。昨年度同様の教員が講義を担当しました。最後の 4 コマはテーマ学習をして、宮崎県水産試験場小林分場の研修を取り入れ、宮崎県の水産業に関する能動的な学習を行う予定です。

[8] グループ活動中、メンバー全員が積極的に参加できるようにグループごと学生が自らリーダーを選抜し、このリーダーを中心にグループ活動を行うことができた。これにより、課題提出の数と完成度を高めることができた。

[9] レポートについては剽窃にどう対処するかという問題があり、学生同士の剽窃は減ったと思うが、宿題にするとネット

上の記事を貼り付けてくる。今後は、授業中にレポートを書かせることを試みる予定である。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 10 クラス（順不同）

[1] FD 活動レポートの提出の締め切りを遅れたので今後注意する。

[2] 大学での学習の特徴と科学的な考え方を教授するとともに、就職や大学院に関する情報を交えながら、授業を行った。これらの教授した内容をふまえて、テーマ学習を行ったことにより、より実践的、能動的な学習となったと考える。

[3] パソコンを用いたプレゼンテーションは初めて(情報処理入門では作るころまでしかやってないとのこと)ということなので、学生も良い経験になったと言っていた。

[4] グループ学習では議論に参加しない学生がでてきがちだが、今年は発表を班のメンバーにランダムに当てることにしたので大分改善されたと思う。

[5] 学外研修が、先方の都合により、試験期間中になってしまった。独自のアンケートにも 5 月、6 月実施の希望が多かったので、来年度に引き継ぎたい。

[6] ・評価できる点：

テクニカル・ライティングの授業における各回ごとに、グループディスカッションの時間を設けて、アクティブ・ラーニングの学習実施及び学生のコミュニケーション能力を向上させるため発表と討論を取り組んだ。

・反省すべき点：

グループディスカッションの際、各グループの発表と討論のため、機器の準備、部屋の状態など工夫が必要であった。

[7] 次のことに焦点を絞って、取り組んだ。

- ・教員免許申請の仕組みを知る。
- ・数学的な論理思考の大切さを知る。
- ・アクティブラーニングもさることながら、クリティカルシンキングの大切さを知る。

(新入生に対してすべきと思われることはいっぱいあり、この時間を利用した調査事項等も結構あり、一方では、理解できていない事柄を丁寧に説明し直したりと、大変、盛り沢山の、授業だなあ、と、思った。)

[8] 本講義の目的は

- ①大学で学ぶための心構え、
- ②学修の方法、論理的な考え方、文章のまとめ方、表現の方法などの種々の学習技能、
- ③保健体育教員に求められるコミュニケーション能力の習得

にあったが、オムニバスで担当することにより、各テーマを掘り下げて講義することができたのではないと思う。

[9] ・評価できる点

→学生が理解しやすい事例を説明には取り上げるようにした。

→教科書とは別に、講義資料(パワーポイント)を作成し、今何をすべきかを常に表示するようにした。

・反省すべき点

→数人から、教室が狭かったと意見をもらった。講義室の定員としては十分な大きさだったのだが、グループで議論する時間を数回設けたため、その際の席移動や議論スペースが窮屈だったのだと思う。

[10] 本講義で評価できる点は、以下 3 点に集約されると考える。

- 1 ホームルーム機能
- 2 社会性の涵養

3 強制的授業参観

1 講義の目的外であるが、本講義の「ホームルーム機能」が最も良く機能していたと考える。クラス担任が講義を受け持つ形態なので、毎週、新一年生と顔を合わせることになる。出席状況、顔色など、リアルタイムで分かるので手を打ちやすかった。実際に親を呼び出し、本人、親、担任2名（授業担当者）で面談を実施し、学生の学園生活を軌道に乗せた事例もあった。また、様々な場面で授業の前後に学生を個別に呼び出し、こちらから問題点を指摘したり、学生から事情の説明を受けたことが多々あった。新一年生に対して、こうしたきめ細かな対応ができたのも、本講義が担任によって実施されているからに他ならない。

2 本講義では、ライティングスキルに焦点を絞った内容を多く行い、課題を多く課した。学生には毎週のようにレポートを提出させたが、クラスサイズ（55名）を考えると、担当者の添削負担は非常に大きかった。学生の能力向上にある程度資することができたと思うが、学生の側からすると劇的な能力向上を実感し辛い内容でもあるので、自主的な継続学習に繋がるようモチベーションを保つ方法に工夫が必要であり、教育支援部からのノウハウ公開等支援が求められる。

副産物として、多くのレポート課題では、細かな技術的能力の向上以前に、「〆切を守ること」「伝達事項を確認すること」「教員からの呼びかけに適切に応答すること」「簡単に休まないこと」などといった、社会性の涵養に非常に役立っていたと考える。当たり前すぎて目標に設定するのも憚られるが、結局の所、こうした人としての信頼性に繋がる部分こそが、先ずは重要なのだらうと思われるし、留年する学生に最も欠けている部分であるとも経験的に感じる。

3 本講義は、2名のクラス担任が同時に教室に入り、互いの講義を学生の反応見つつ拝聴する形態だった。非常に緊張感があった。参考になる部分も多く、学生以上に教員が学んだのではないかと思われるほど、良い時間を過ごせた。しかし、クラス担任が実施する講義形態では次年度に担当が交代するので、講義がなかなか洗練されていかない原理的問題をはらんでいる。

その他。

専門科目の方は、速やかに授業評価の集計結果が戻って来るので、授業や試験の記憶が鮮明な時期に反省点をまとめることが可能だ。基礎教育では授業評価の集計結果が戻ってきていない時点で、何故、このようなアンケートを実施するのだろうか。教員側の一方的な主観に基づく反省点しか出てこないであろう。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19~21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 22 (100%) ②いいえ： 0 (0%) 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 10 (45%)

②読んで理解する： 8 (36%)

- ③自分の考えをまとめて話す： 15 (68%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 18 (82%)
- ⑤討論する： 13 (59%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 15 (68%)
- ⑦その他： 2 (9%) 「グループでの共同作業」「グループで意見をまとめる」
- 未回答： 1 (5%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 11 クラス（順不同）

[1] 体育教員は事態に即応した言動と問題解決が求められる機会が多いことから、洞察力やメタ認知を前提とした対話の重要性を強調した。

[2] 授業の中で、「考えのまとめ方とプレゼンテーション」や「How to communicate in English」等を行った。

[3] テーマについてグループで議論させた。

[4] 3人組のグループワークを行い、1つのスライドにまとめさせ、全体でプレゼンをさせた。

[5] 塚本教員は「討論」、山田は「プレゼンテーション」を重点的にやった(事前打ち合わせによる棲み分け)。

[6] ディベート大会を開催した。開催に向けて、「資料を読む、自分の考えをまとめて文章にする、他者の意見を聞く、他者と討論する、プレゼンする」について、レクチャーおよび体験学習を組み入れた。

[7] 4～5人のグループに分け、各グループで話し合い、その結果を、その都度変わる発表者が報告をする形を取った。しかし、どのような人がどのようなことを発言し、どのようにまとめたかについては知ることができず、一部の人のみの関わりではないかとの気持ちが拭えなかった。

[8] 理科の実験の得手／不得手に関するアンケート調査を実施し、Word と Excel を利用して、その結果をまとめ、全国的な調査データとの比較検討を行った。レポート作成の基礎的な書き方を修得すると共に、理科の実験に対する現状を理解させた。

[9] 第 7,8,14,15 講の計 4 回は、文章読解、文章要約、パラグラフライティング、レポート作成などをキーワードとして日本語に関する教育を実施した。毎回課題を設定するとともに、学生同士で文章を校閲しあう時間を設定することで、アクティブラーニングの要素を可能な限り取り入れた。

第 10 講から第 13 講までは、「地域」に関する内容とし、グループごとに「宮崎県の農林水産業に関するもの」を調査させ、その内容を口頭発表させた。各回で小レポートを提出させることで、グループ（個人）の進捗状況を把握できるよう努めた。

[10] ・グループにいくつか課題を与えて、コンセンサスをとるよう指示した。

- ・グループで、プレゼンテーションを課した。
- ・他グループのプレゼンテーションを聞き、良かった点と悪かった点を各自記入し、後日、回覧した。
- ・プレゼンテーションで取り上げたテーマに関してレポートを課した。
- ・レポートを事前に提出させ、学生相互によるレビューを課した。

[11] コミュニケーション能力を育成するために以下の取り組みを行った。

1. 自己 PR のためのスピーチ
2. グループワークによる課題解決およびプレゼンテーション
3. レポート作成およびピアレビュー
4. 小論文

D（問 22～25）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 18（82%） ②いいえ： 4（18%） 未回答： 0（0%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 14（64%） ②6～10回： 4（18%） ③11～15回： 0（0%） 未回答： 4（18%）

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 6（27%） ②政治・経済・産業： 9（41%） ③自然環境・フィールド体験： 9（41%）
④その他： 4（18%）

・・・「県内産の農産物」「生活」「文化施設」「各グループで1テーマのため、結果様々な分野を取り上げた」

未回答： 5（23%）

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 6 クラス（順不同）

[1] 宮崎県水産試験場小林分場において、宮崎県の水産業に関する研修を行っている。また、県が推進しているチョウザメの完全養殖技術についての講義と現地視察を行っている。

[2] 第10講から第13講で「宮崎県の農林水産業に関するもの」を題材として取り上げ、テーマ設定、調査、取りまとめ、プレゼンテーションを1組4名のグループで実施させた。グループ毎に取り上げた農林水産物は様々であり、調査方法に関しても教員からは特に指定はしなかったが、グループによっては、宮崎県庁に向いた聞き取り調査や日南市役所への電話取材を実施したところもあった。

また、ライティングスキル向上を目的とした第14、15講で一工夫し、学生達がプレゼンテーションした内容を題材にした。詳しい事情を理解してる上、自分自身の文章を題材にしているので、単に与えられた文書を題材にするよりも遥かに実践的な演習になったと思われる（添削者は大変でした）。

[3] 次のテーマでグループ学習を行った。

「宮崎の将来の農林畜産業や医療介護に貢献できる機械(システム)について提案せよ」

当然、少子高齢化、グローバル化、環境維持 etc を考慮せよ。

[4] 3人組の18グループが、それぞれ宮崎をテーマとした再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力など)、IT、観光、医療、農業などを調べ、問題点や解決方法を議論し、全員の前で発表した。

[5] 塚本教員が小村寿太郎関係、山田が近所の神社に学生を実際に出向かせ、そこに関する調査報告を先ずプレゼンテーション、次いでそれを文章として提出させた。

[6] 博物館見学を通して、宮崎に生息する動植物や特徴的な地形を教材として、小中学生を対象とした質問カードを作成した。児童の身近なものを題材にして、教科内容に対する興味・関心を引く授業構成が将来的にとれるように、学生に題材を提供した。